



殿塚 靖

さん(東石田)

リングで戦うJA職員



キックボクシングで JAと筑西市をPR

小さなころから好奇心が旺盛で、色々なことに挑戦をしていたという殿塚靖さん。中学校では空手部に3年間所属し、さまざまな大会で好成績を残すなど、格闘技の分野で頭角を現し始めます。キックボクシングとの出会いは、大学生の時でした。「県外で一人暮らしをしていたアパートの近所に、ジムができたんです。格闘技には興味があったので、すぐさま入会しました」と殿塚さんは話します。そこから殿塚さんのキックボクシング人生が始まりました。

就職がキックボクサーか 新たな挑戦

大学4年になると就職活動が始まります。市内で就職し、自分の生まれ育った筑西市に恩返しをしたいという故郷に対する想いで、JAに就職することを考えたといいます。大学の講師、先輩、友人、そして両親からのアドバイスを受けて就職試験に臨み、見事内定をもらいました。就職活動も終え、ジムに通い一年が経ったころ、キックボクサーとしての力をつけ始めた殿塚さんに転機が訪れます。プロにならないかと



パンツに印字された
ちっくんときりりくん

ジムの会長からスカウトされたのです。「就職するか、プロになるか。周りのみなさんにたくさんアドバイスをもらいながら、何日も悩みました。そして、悩み抜いた結果、JA職員のままキックのアマチュアとして戦っていくことを決めました」。第三の選択をした殿塚さんの新たな挑戦が始まります。

キックボクシングを極めた先の恩返し

JAのライフアドバイザーとしての仕事とキックボクシングを両立させて5年。仕事で外回りをしていると、お客さんが応援の言葉をかけてくれることもあるそうです。「大会で良い成績を残し、応援してくれている人はもちろん、私の相談に乗って支えてくれた人たちの期待に応えたい。そして私の名前が世間に知れ渡ること、JAと筑西市のPRに繋がりが、恩返しできるかなと思います。これからも戦うJA職員としてリングに立ち続けたいです」と話しました。

明日の勝利を掴み取ろうと手を伸ばした殿塚さん。挑戦はこれからも続きます。